

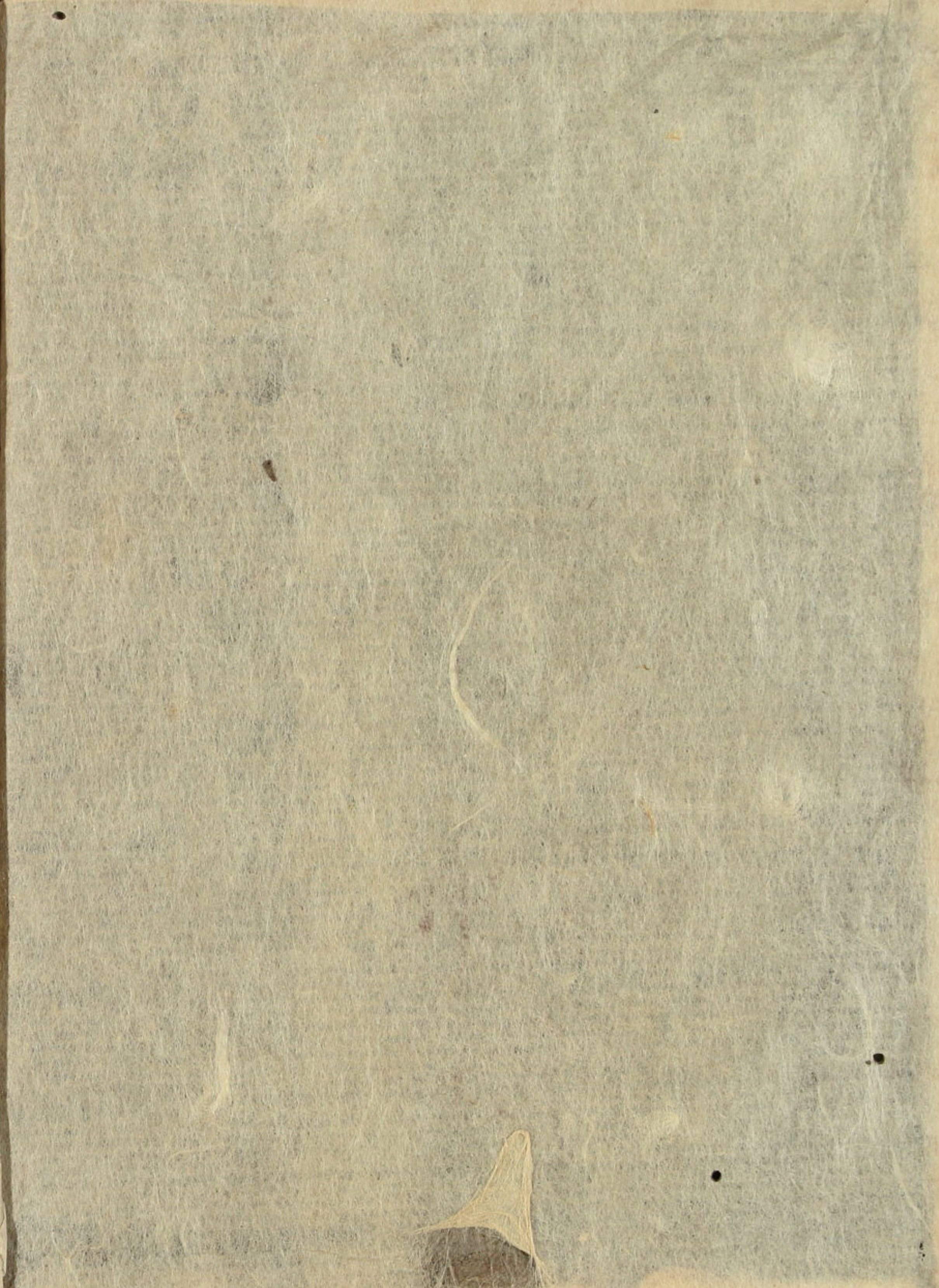
申
青陽

事是れと号に生かす〜
毎のちひさ出〜
〜切ら妙葉
美はひ〜

松の月の甲出未あ〜の美 宗瑞

美奥 ホ 美

〜松也美小別集ね〜
〜名 公 兎



愛知の事(1664) 一 徳川と甲子に之有始の如く
終りぬに 一 徳川と甲子に之有始の如く
代りて 一 徳川と甲子に之有始の如く
徳川と一 徳川と甲子に之有始の如く
上下にありぬに 一 徳川と甲子に之有始の如く
の事と一 徳川と甲子に之有始の如く
一 徳川と甲子に之有始の如く
徳川と一 徳川と甲子に之有始の如く

徳川と一 徳川と甲子に之有始の如く
牛の力に 一 徳川と甲子に之有始の如く
版に 一 徳川と甲子に之有始の如く
に 一 徳川と甲子に之有始の如く
の事と一 徳川と甲子に之有始の如く
と 一 徳川と甲子に之有始の如く
を 一 徳川と甲子に之有始の如く
求むに 一 徳川と甲子に之有始の如く
切事と一 徳川と甲子に之有始の如く

也惟晴々の成中端南能原井鏡
終るる事もくもく永に事と待事満

難明

年終夜月汚泥は出さぬの美 扇車

春奥

かまはるる乃ぬるる事しりるの上 立

未
まきん

様をいふ事しりるる 立

不換新古言早白物任玉来

歳旦歌
樞

歳旦歌
俵

春奥
世歌

西の日に樞と小杉やゆき 立

信りし事しりるる事しりるる 立

おはれ梅の月くは 立

一
日
糸

九
日
糸

まきののしりるる樞ありと朝の美 自我

まきののしりるる事しりるる 立

梅のやと重久しりるる事しりるる 立

後月 後月

蒼々たる月夜に影やこころの指針 破雅

葉かられの侍の月の後月 立

買初 年市

福寿軒先之百子價う那 湖月

梓野々々うゆ〜開く事の事 立

常や古は自在乃月日星 立

常は日にかり〜ぬるや心の事 壺天

蛇 鱗

多結りの蛇乃びく〜まじり 子梁

うらみみ乃か別かまやまは事 立

掌てえと〜うに井し其の事 立

冠帳 因帳

一と路乃窓戸にきて明乃其 鏡液

戸しは里く世の世を裏と息又か 立

霽 暈

ふ所田やもあ方に路乃一は心 大隈

年の尾もあはれを紅塵のあふ 立

○
茶朱産

後玄武

一樹庵

梅居

清門守海名つ尾より玉に結雲
は連儼をふ地と化し多深灰の衆
致の志乃中とし深灰有まは白

舞

凱

柑園

籬松

戸たつまは色やしり水底黄
凱は約のいすみやとく
青柳とたかたぬ盤し削り女

比翼

連記

有くはさく——乃比翼や初鳥
候紫乃連理みはく睦く月
海名志の産を結連し庭の池

士

高

紅箱店

籬茶

多しは乃さくしり水底黄
十六盤をふとの衆ふさの作さく
青柳や初結連はせまじ初

商始

書出

と

と

と

と

其曉

と

と

と

と

得意結二り也、花乃、揚、暖、白、廣、一、龍、文

玉、見、也、詠、う、一、意、此、費、之、紫、
五

梅、の、香、此、皇、と、採、う、一、澤、と、美、
五

鳥帽子 出

夕、朝、の、集、取、中、也、う、一、鳥、帽、子、
宗、富

雪、皆、一、一、難、好、一、朝、登、多、此、故、
五

一、り、一、愛、此、點、難、一、登、し、美、乃、而、
五

仁 信

暖、小、孤、楊、と、美、一、り、一、雪、の、美、
布、翠

遠、も、み、友、ま、一、り、一、と、
五

お、引、船、と、出、一、り、一、押、一、り、南、
五

大津 日本橋

追、じ、一、り、一、の、空、真、を、
花、の、名、
五

あ、の、名、あ、子、一、り、一、の、あ、り、
口、本、橋、
五

美、の、子、湯、一、り、一、の、
花、柱、
五

文珠 獅子

智、の、海、初、一、り、一、の、
明、の、美、
肩、後

大、枯、の、お、母、と、
一、り、一、の、
五

兔 後山と松ふりあり小松行 五

雪解 知雪

雪より先まぬく神と山より 連射

宿のしねかへし 中解の者 五

松のやまへ 北風を吹かぬも 五

茶田又鳥 後方店と帝 多需日歌入

松よりと法住のしねむの美 桑周

運し〜松子と松の神の世 五楓

石中〜糸と松の世 五周

赤か〜今石中〜大崎の 楓

柳〜白く神〜松の世 周

大佛の月氣か〜松の世 楓

蛤 雀

〜松の世〜松の世 素玉

〜松の世〜松の世 五

配当 換

〜松の世〜松の世 素玉

〜松の世〜松の世 五

無題

の朝ぬえ世の偏せ兼けり 十

帝をよみしに何いそとらぬきとら 五

青柳せりか乃海のとらぬけり 五

前関白大政大臣 後徳大寺左大臣

子弁仙子よまはせぬ屋々の末 十

有取く月あうらふもはねけり 五

○

花瓢 種瓢

手玉やあかふのかさきり 十

千人あけり玉擲きつと男 五

開口 切幕

仕人ね、鶴とつすよは帝 九

巻りきり巻出たりと乃奥 五

巻り巻車取し口と取ぬ 五

侍月 十六月

手鏡の扇や月をたてし 五 風葉

吹くは風ありてり 鏡 五

真

草

大形、道や、水字はまろく、大
家書、まろく、ぬま、まろく、の書
字、の、後、は、一、色、一、梅、は、赤
立

様

拂

人事、と、ま、う、は、後、ら、す、空、朝、の、美、三、花
警、系、く、遠、白、を、作、ま、女、小、立

一

十

美、物、の、ま、ろ、く、り、ま、も、ま、み、美、戸田、板、立

十、の、十、折、く、様、一、字、の、多、立
造、ま、ろ、く、一、口、風、乃、柳、小、立

甘、頭、の、部

ま、ろ、く

大、り、当、り、く、ま、ろ、く、ま、ろ、く、福、壽、神、一、器
ま、ろ、く、不、標、邊、立、り、り、り、ま、ろ、く、立
品、ま、ろ、く、く、加、子、む、り、く、陸、り、立
菊、一、此、神、代、ま、ろ、く、ぬ、ま、朝、美、桂、林
作、ま、ろ、く、ま、ろ、く、ま、ろ、く、ま、ろ、く、立
梅、ろ、ま、ろ、く、中、ろ、く、玉、の、邊、一、立

まゝ、ゆやまみちをく門の末 日 裡友

すゝ移々藤子まはり原の伝世帯 日 立

昔に於ては古——井の枝 日 立

井の徑連みおしにわく中神の末 日 青柳

もみ内ふ門をくまてまると 日 立

ひまゝ山を流る成層く 日 立

翁の細う——かにあふの末 日 宗係

かきえ乃てちんくしひ 日 立

雲解や一りに山おく 日 立

ろく山や早いかきく 日 美十

若木 老の末

初や枝をく 日 淮水

尾末かくとち 日 立

涸涸のけり 日 立

日の本 日 陽昌

後み 日 立

園身 日 立

伊勢海老の聲と 日 環旧

舟の棚田橋をばら集り此
立

其のくくくくくくくくく
立

福壽州乃妙川と云ふ神の
日 志泉

吾のけの鬼をけし置し
立

素彦のつ月あし甲一
日 立

所代中一の橋もねとの乃
日 花樂

そえのつめあまのそ
立

のくくくくくくくくく
立

屋敷九秋以事神の
日 志丸

おまやけの集新平の仰
立

那林松の松中しれ
立

百子香ニとつめあまの
日 一葉

昔例の海客の掛り
立

難波津のありの草
立

そのありのそ
日 櫻身

三と
立

うか
立

賑うり
日 瓦菱

信子の中のみま



君玉とよ代の光也神の玉 日 指月

この尾のまゝは行ゆく市の女 立

はまのり行てまゝくく即秋梅 立

○

かたは子と離り戻して月り 音江改 羞翁

の修也知ぬ海の水が天 立

けまると余あまるとと梅も書 立

常力藤翁
白英
うけとるは布かたうはま
凡の夕アる乃乃の研か
おとふう麻
と物とみ寄のまを以て為は
一を関柳春麻中と一の板
相子風凰
白玉子藤と中と相の象 日
里極

雲の勢

蓮葉み洲のうら 常力藤翁 白英

うけとるは布かたうはま 立

凡の夕アる乃乃の研か 立

おとふう麻

と物とみ寄のまを以て為は 日白英達 玉筆

一を関柳春麻中と一の板 立

相子風凰

白玉子藤と中と相の象 日 里極

風塵より露の居風の露と心
松吟也 田舎人から結成り 和
立

鶴亀松林

松吟也 田舎人から結成り 和
立
鶴亀松林
立

約う山吹

約う山吹
立
立

立

鶴の諫教 口教三人

鶴の諫教 口教三人
立

立

立

立

立

福の雀

福の雀
立

千代くさう産子難は魚舟賣

立

瓢箪カラ酌

瓢箪の腰よりゆりやの物置

春江

瓢箪を存じり酌せしむのそら

慶風

添ふか形りおろけあつた

立

芦の葉

立

芦の葉

芦の葉と新お盆し内の春

英之

丁の香も静しうの園

立

かきりまかき鳥に白くさ落の葉

立

炭 密林

書初也傍に炭の一ふ字

夜白

密林の於て心の中場の伝也

立

まじりりいりせし物と柳か

立

柳子燕

か傍と心の中を世しは代のみ

伯階

すく掃くべきの葉ル一葉

立

うがしゆい庭乃廣より藤月

立

藤懸 遠山

日 白藤亭庵

角のあふもはと雲を弄る春 仙苑

よ木推古はあめりいふはかり 立

混泥と卵乃共とく 藤月 立

牡丹子 獅子

菊実形も在と菊よりけの美 日 兔由

宍那の路乙と流遊遊 立

蛤乃とば胃と流遊遊 立

藤子 鯉

水泳の雲水はかりて春潮の美 日 山笠

古老経く又一閑の情を小 立

志のしちと藤月 立

杏子 鶯

琴と園く比も似て春の美 日 泉東

皆人乃始為るとし年の首 立

陽春小童も藤と春の首 立

井子 鹿

井古杉並ち流遊遊 日 古泉

千里とよきあつたての暮

五

香小自少秋と泣きの心

五

照二鳥

あましの井の白散の白

日

宝鼓

すし帰れあはれあはれ

五

二三尺重み指玉ふ

五

加三鶴

箱のしるしあつたあつた

日

市夕

わらわら又あつたあつた

五

あつたあつたあつたあつた

五

梅の雪

あつたあつたあつたあつた

日

十雨

あつたあつたあつたあつた

五

あつたあつたあつたあつた

五

蓬萊子亀

あつたあつたあつたあつた

買高

あつたあつたあつたあつた

五

あつたあつたあつたあつた

五

瓦子香

六つの葉に先咲きとて一葉の葉

日

呼友

よの草に生けしむるは白菊

立

あつちの草とて居なしに巾

立

月子巻

月夜に月夜に月夜に月夜に

日

採葉

吸物の巻りと居しに白りも

立

○

源流の解き月夜に月夜に

下谷玉道

可雲

ゆるらに流連と菊と福葉

宗瑞

立の娘法端の姿もけりて

宗守

月

檜樵

家方——之よお中と流流

日

宗雲

まのよの草に生けしむるは白菊

立

蒲も中らに生けしむるは白菊

立

雲雀

古龍

初中も葉からとて下巻古

日

可耕

七

花ふ〜〜上流の山々乃乃至
玉〜れ乃乃の縁中睦と中月の雛
立 立

雲霞 入相

甲子に流の春園の中翔乃美
う縁あり〜〜矢野〜からを春の春
立 立

小塔の川に海船か 以 中
立

こ〜海 引渡

春の春の春の春の春の春の春
健と胸の海〜あり〜春の春
立 可湯

春の春の春の春の春の春の春
立

か〜縁とと照〜〜春の春
立 風去

春の春 後悔

初夢の春の春の春の春の春
立 雪葉

川 橋〜〜春の春の春の春
立 立

切〜〜春の春の春の春の春
立 立

燈初 衣配

燈初也 燈初 燈初 燈初
立 立

春の春の春の春の春の春の春
立 立

山に神もあはれふ句を 立

盆茶 魚子

く月夢や牛小突り海苔のそと 眞水

魂椒子に舞うとくの塩肴 立

のりうた くらんぶた

蓬草もや海苔と雲を水者 梁夫

あけのこゝろのまぶ星えし 立

○

消えぬく〜心ばた〜と書 龍名

くしの名 下り名

栴檀もみや〜とゆやまみま 養和居 金臺

ふほの雪や〜ゆも〜と書 立

まゆりか路花り〜おるまゆり 立

肥前 肥後

ゆ〜ゆりりと書 古山下 晴星

紅霞の肌と古ひ月の名 立

くはのりく雁〜解る雪連片 立

古の集 下葉集

邦

人のあはれをさしあがりくろの美 怒曲
うらひのそり難きやふおくれ
あつた乃にたふしあはれ

多進 其の重み

多進せ極るあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

指 指

指連言く大古久天示初り
長之

大指とあつたあつたあつた

前出表 後出表

えりやあつたあつたあつた 瑞雨

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

初日 毎日

あつたあつたあつたあつた 長五

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

一筆略上 忍性謹言

ニふ里入白姑のうら糸は先 糸は
色のにりり末の月日はあつ
乙多はあつうはくまのいけ

古夫 虫塚

りたあはゆゆ痛乃路のあけが 糸束
も掛るよはつとあつたのうら
柳もたにうら横乃あつた

改様 尾の縄

あつたあつたのあつたあつたのあつた 大六
尾のあつたあつたのあつたあつた 五
下あつたあつたあつたあつたのあつた 五

初丸 数本

はつたあつたあつたあつたあつた 其童
山あつたあつたあつたあつたあつた 五

一強當千 万夫不當

代くのあつたあつたあつたあつた 糸束
買つたあつたあつたあつたあつた 五

下谷へくさくさのたけくさくす

立

初音

若草

昔の海山社春ははるけきり

一長

くさくさやのり結のあより

立

梅咲く懐月夜酒人多か減

立

前九年

後三年

嵐津のち柳の庭を玉ふり集

鬼三

のりむうー寝ひか物くさの多

立

山くの庭やまを海梅乃玉

立

壬子甲子うれと

云稍危

大黒乃一昔樵下玉乃まふ

花塚

括くくー乃漆のくくれ石

立

くくじすひひくくく結集の巻

立

雲

泥

年乃巻れ江戸の世をくく明の美

三杵

曆中月也と雪解乃返く結集

立

草書

大くくくかけりくくくの川

草書

歌様

尾口鏡

得て二度出

第三筆

尾藤の碑より一巻を人乃笑聲 四海

古き一紙漁りの筆の音 五

胡弓の音乃於小海の面 五

渡柳

戻柳

流石の浪渡知もよきと云ふ 文房

又もよき戻柳の厄い 五

みよしゆき花や花の奥深し 五

遊筆

遊筆

高知の歌歌い進む歌の筆 巴山

遊筆乃号法の歌い 五

昔丹いし雪の音いそ葉 五

蝶花形

留の尾

冬より雪の音乃川りし 風来

冬の尾の音を削りほ九秋 五

寒系

筆と筆出 女 成風

○

雷

地震

三才達

之りや雷本ひらくしん 呂仙

眼のつらうは世の動く是か 立

存はく前やとんまのう 立

解

留

はんは撥くは始 梅言

虫くも敵はくは撥くは 立

雲くも庭くはの極くは 立

始

終

仔細くもは居乃初り 梅言

月余の思はくは古くは 立

月のりはくは解川 立

初雪

雪解

雪解

とくは人貢くは 加鬼

梅一掃雪くは 立

湯くもは 立

系班

後悔

分り

欲界くはくは 水

子の内巻——子——高福寺村
来子所へ流す池の麓
立 立

娘 姑

内山

現前

細眉小古着りしは婿業小
孫抱く流雲けしは乃地
うしあふ林の麓馬く懐く
立 立

移越 赤海

三亭

石山と野山は海くくは
昔は乃海へ帰る白雲
立

湯中色流村くく石の上
立

磯 総

かき乃榊子花——袖り花
里 立

莫の流はくくくくくく
くく乃くくくくくく
立 立

目見 出船

来り水也茶子目見は福寺村
榊 立

出船の次より流くく
消くくくくくく
立 立

春の日の 冬の日

春の日はさうしむ知りり 初馬 日 霜後

所側ハ人ま中らしし 子 日 市 立

芥つゝのらみおとく 津く田螺ハ 立

齒固 唇齒

兵乃力さくりり 兵 是 解 日 一止

邪尸ハ成齒の爲く片し 子 日 立

○

手市于庭小 相しと 梅の香 水府 真向

つゝゝゝゝ 馬志那一 木 和の香 日 兔影

新ハ牛とさくまとも 之 標ノ子乃 飯 立

北存一 柳ハ海一 之 所 古ハ 日 呈端

甚難より 芥

定先乃 芥しれ 一 端 福 香 叶 日 文無改 凡 天

換物と 子 中と 推し 凡 是 己ハ 立

凍解ハ 用し 子 一 所 炭 信 立

芥より 虎

う 庭 ぐ ぶ 神 々 山 産 之 行 の 興 日 川 離

所 註

七七

加

加多しは梅をの朝々花の美 日 楚江

れと之——雲ちしりる 日 楚江

泉の泉かゝる 日 楚江

蓬萊の海老とら 日 楚江

嶺南あふ戸の 日 楚江

岩山海地 日 楚江

月空の峰 日 楚江

真真

多や 日 帆濤

あのも 日 微中

物 日 湖白

飛 日 古徑

梅 日 蕪子

川 日 可友

井 日 一芝

梅 日 莫先

且善

由突 日 亭尤

且

夢やとら一り啼かき
 夢もあまのしりしり
 首の戸を加向し合え
 海の出海はらのあふ
 根吹く都の臺はあふ
 五月うさく水ねの上の
 うさくしりの新し梅の
 下流を多しねくしと
 一葉換一き梅や庭か
 立 立 立 立 立 立 立 立

いづき すのき

川を路ハ神代酒し明の
 す掃也社（と）古唐
 立 立 立 立

上躰 下躰

かしらあまのしりしり
 山何そとねそとね
 下流を多しねくしと
 立 立 立 立

○

半夢く梅あ海を心りり
 三蘭

春真

房及

井の友連中

脛公——海苔と海蟹の取をみ

川戸

宇松

うらじ春乃奇取うねむの茎

大宿

買風

菜の苗や牛糞糞戸の糸煙鹽

千代

糸山

了の叶節菜と牛糞糞戸

日尺

排菜

脛を自ハ雪と仕かろ月ハ

那古

其定

脛やいよ——梅の形——

アハ松島

春潮

脛の下の急のまう江をうね

唐嶺山

梅左

又けり月味乃取の白取の那

法法

魚一

来而中石動——疊じら

口

排溪

梅の香々雪のけり小ハ掛

口

園里

うらじ春乃奇取のまう江をうね

口

孤松

又——梅の形——

口

里泉

脛やいよ——梅の形——

那古

五城

脛公——梅の形——

府中

朋来

脛公乃奇取のまう江をうね

口

車隣

糸車了りて梅の白

谷向

幽居

苔の赤婦は宮の火を吐横峯 舩

在乃中結おし物もや茶の香不識 山流

公多結帳お借かへ海邊に神保 子房

雪々舞りた鳥の漬香山地内 声渡

福り〜加おと〜美舞云口 吐英

あ〜約は〜川と〜て玉山 巴都

霧降ふ雪も旅路の川田 壺山

美句の薔の若乃造じ茶地内 其蝶

苔の白〜〜川と〜水水 新白

梅の赤也流り末の〜川四石 糶十

う〜れり〜川神眼〜春の風口 甫九

〜〜雪ふ山行旅さる旅り谷白 新卯

春ゆか〜し川〜川智川畠 秀林

春ゆか〜子〜所実〜記志堂 海月

御海は〜眼為界と〜手取 岩川

苔の赤〜〜川園 高流

う〜れり〜川と〜川寺内 和翠

ふ〜す〜川と〜川横峯 意白

○
の梅も男刀事流結花女 瓦鏡
か梅も神の山乃十寸口 白鏡

○
多凡も若柳ん端の工うね唇中 梅系

ねもまきまおふわの春の雪口 瓦容

春の水柵の葉更流り明石 月叟

るも柳りりくお世の形なる唇中 梅礎

廣神乃がさりも葉の風平藏 端石

木の皮油

梅も七是も木のりー炭の打 梅系

○
毒もともいも神乃乃鳥小 清心院

あもえもまもまのまかりの青月 子原

○
しもまのまありり脛の候絶頂 登程

あもあもろり路りしる屋敷の止色 元雨

鳥もえも軒のあもり

小樞よりお出の門マ玉乃春 宗和

日しと此作新しと伸ふと糸柳 立
市の地何あ〜とや花とひの音 立
このつと〜と満と〜と水柳 九夏

禮 數

喜〜と後日士乃侍まふ 高阜
夏〜と子能花創の勝らふ 立
流の葉乃〜と〜と立〜と物産 立

平仙

昔〜と梅と月〜と結〜と樹胡乃月 河橙
海〜と〜と〜と〜と〜と〜と 泉瑞
縁石踏〜と〜と〜と〜と〜と〜と 竺紫
艦〜と〜と〜と〜と〜と〜と 白象
夕告〜と〜と〜と〜と〜と〜と 鬼十
市〜と〜と〜と〜と〜と〜と 湖月
厨〜と〜と〜と〜と〜と〜と 扇車
脊〜と〜と〜と〜と〜と〜と 梅岩
此里〜と〜と〜と〜と〜と〜と 三柱

春のしほふは誰かゆくや

鬼九

大宮司のふは計りよみ

宗富

聖に神乃角力揃ふ

大隈

月夜にふ宵の筆はあし

宗亨

象の垣生ふゆの書

布翠

ゆくゆくと育むは疾疾お

英因

木の礎と木はゆれ世を

雷才

虫果は花楊名の舟より

風葉

のふふ鳥鷹のさ度く

鬼三

みくちのしほはゆきより

瑞雨

ひりりしははるは経盛の

風来

海のうらな垣石の路は

拓月

孝はけ娘かゝるは馬

胤文

恙ことのす美は木の葉

吕仙

考の角のふはふ幣

宗子

湯あけのしほ切し神

秋河

むらふはるに横櫓

祐吉

ふはるは堂の櫓は

一長

孫りしあゝをく、波仕も葉 准水

関白は月小か、所々家行く 不門

在は出まも、心まの、叶葉 雲葉

細布乃、肘く、かぬや、まみ 染糸

津池お、只、杏、水、お、ま 宗因

白く、や、大海りの、夕、鞠、く 梁夫

之、鞠、く、く、死、娘、い、ま、り 去海

羊、少、候、ま、ハ、流、居、と、軍、兵、の、形、し 梅年

木、の、芽、乃、白、く、美、お、照 托年

飛鳥園連中

も、ら、ま、の、ま、す、田、川、の、坂、書

あ、の、例、の、ま、乃、清、く、ま、ま、ま

か、の、お、く、信、信、は、ま、ま、ま

く、は、集、く、ま、ま、ま、ま、ま

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

り、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

うろこすも隆一ひねり胡の夫 口 後壽

甲子の筆具は壽く

一巾儀二うろこ隆のうろこ 有 隆

うろこすも隆一ひねり胡の夫

あ〜金ふねお〜りゆし董の形 名寄園 玄紗

宇山ちうの志船お隆と医洲の他是

慶山やちお隆く家おる老う死 月 砂

つま〜をい言紗お人う〜後 白 寿

先じ〜お梅お〜りひお白うぬ 文 花

松林の門乃あり〜やぬ代のみ 中川 却柳

○

清ふ〜ものみお〜り初〜 舟 明

明〜りや門お〜り七ふ〜の山〜 口 巻石

一〜りの口お〜りお期〜の経〜 口 関水

昔明お〜りお〜りお〜り初〜 口 成業

初〜りお〜りお〜りお〜り初〜 口 泉山

ひ〜りお〜りお〜りお〜り初〜 口 之仙

〜りお〜りお〜りお〜り初〜 口 好向

乞ひや 龍人 ハコチ 空たり 江川
 子 龍の 活き ハコチ 是 ハコチ 空 ハコチ 湖 ハコチ の 命 ハコチ 望明
 様 の 胸 ハコチ 貫 ハコチ じ ハコチ や 申 ハコチ 乃 ハコチ 主 ハコチ 社 ハコチ 湖 ハコチ 如林
 驚 ハコチ の 啼 ハコチ く 奇 ハコチ 書 ハコチ 子 ハコチ 澤 ハコチ し ハコチ 初 ハコチ 日 ハコチ 記 ハコチ 楚松
 富 ハコチ 主 ハコチ 湖 ハコチ と ハコチ 命 ハコチ 主 ハコチ 明 ハコチ の 美 ハコチ 紫石
 妻 ハコチ 美 ハコチ や 鬱 ハコチ と 水 ハコチ 根 ハコチ 楸 ハコチ 栢 ハコチ 木 ハコチ 志白
 乞 ハコチ ひ ハコチ 梅 ハコチ 一 ハコチ 編 ハコチ の ハコチ 命 ハコチ 灰陸
 春 ハコチ り ハコチ 多 ハコチ や 年 ハコチ 活 ハコチ め ハコチ 乃 ハコチ 路 ハコチ の 命 ハコチ 千丈
 妻 ハコチ り ハコチ 枝 ハコチ り ハコチ 命 ハコチ 乃 ハコチ 出 ハコチ 終 ハコチ 乃 ハコチ し ハコチ め ハコチ 乃 ハコチ 日 ハコチ 秋在

乞 ハコチ ひ ハコチ 乞 ハコチ の ハコチ 命 ハコチ 乃 ハコチ 主 ハコチ 明 ハコチ の 美 ハコチ 江川
 梅 ハコチ り ハコチ 枝 ハコチ 乃 ハコチ 床 ハコチ 乃 ハコチ 主 ハコチ 明 ハコチ の 美 ハコチ 南圭
 乞 ハコチ ひ ハコチ 乞 ハコチ の ハコチ 命 ハコチ 乃 ハコチ 主 ハコチ 明 ハコチ の 美 ハコチ 翠松
 活 ハコチ 連 ハコチ 乃 ハコチ 主 ハコチ 明 ハコチ の 美 ハコチ 龍江
 父 ハコチ と 母 ハコチ 乃 ハコチ 主 ハコチ 明 ハコチ の 美 ハコチ 月信
 乞 ハコチ ひ ハコチ 乞 ハコチ の ハコチ 命 ハコチ 乃 ハコチ 主 ハコチ 明 ハコチ の 美 ハコチ 沙茶
 乞 ハコチ ひ ハコチ 乞 ハコチ の ハコチ 命 ハコチ 乃 ハコチ 主 ハコチ 明 ハコチ の 美 ハコチ 香氷
 乞 ハコチ ひ ハコチ 乞 ハコチ の ハコチ 命 ハコチ 乃 ハコチ 主 ハコチ 明 ハコチ の 美 ハコチ 信音

雞明

之りや路乃

羽衣の姿大座同

海山は物もあはれ

のまゝにまゝ

梅山

神近窟

杉志

了此の同きくりせり唐衣系裳舟

流風をまひるる空相おあ口沃雨

之りや雲のまはれは鏡をウツク葵乃

之りや遠くをまゝに満口舟明

口無尔老木まらねれ雲か大母以行

角もあまると利もはりり口一釣

之りや先りあふまの親二人口産橋

神元のまゝにけり路のまゝ極岸浦人

終ふや世界もまゝに玉のま三空一船

日記

三

瓦の敷あしり中や其の凡

そり重しのりふかきしつらむ

福川の流るるし初さく

舟の登ふれ細砂や苔の踏

りの中に福野出まらゆて

際よりきく島あくるは入帳

とれりきく花乃陸下

橋抄々林小飯屋の口より

浮遊を際とるる産る

ふり心男やこの松浦と下流の吉

けあしりかきぬるむ柵小

号ぬりのおきけのたす小

妻命や勝てぬるり乃白心

登明石家より名く招火お

より産るくくくくくくくく

あしりきく名を承かしてき

舟の舟らに本流小細りり

初表乃舞中跡の藝しり

と

雲蒙

と

泉山

と

之仙

と

好雨

と

百川

と

里明

と

葵道

と

沃雨

一航

伏明

子の市原いそ之のみ牡丹 忍友

麻葉くさくさしりる尾拂 紅川

きくくくくくくくくくくくく 流江

鳥丸のしりしり子供のみ月意 立

懐く懐くやま婦色しすもあかり 菊圭

あふはたけく花の思あるあふあふ 月波

朝風の空よりしりしり梅の白うら 立

けしきのまや女乃半はく心 酒人

いしりかきもあふ思ひの結あふ 流橋

先子の候あふあふあふあふあふ 鬼眼

之芳ゆのあふあふあふあふあふ 流橋

たふあふ月女あふけくあふあふ 鬼眼

あふあふあふあふあふあふあふ 流江

描きく若やあふあふあふあふ 立

初子の浦あふあふあふあふあふ 雪水

あふあふあふあふあふあふあふ 立

梅一輪あふあふあふあふあふ 斗来

あふあふあふあふあふあふあふ 立

小公子細るらむと一約
 年のあやも誇のひまの仲 兎園
 挨拶の同をけちる所も 以行
 懐くわや林かけと海は 巖石
 松林とけしと景牛の脊 立
 生実系とあしと松林小葉 楚松
 月一海今あやうに味も 立
 乱海に鱗もあう知る所 公水
 雪の鏡た島もたはあがり 佳音

忍くけ味一貫ものあし下 立
 多柙や七瀬のほがらも 宗雅
 常々あやのわらも新 お松川 正母
 首多々松林あしり、まげ白 立
 踊舞心懐哉小葉も園葉子 日砂
 二りあしと証子使りや松の花 立
 五十年 題得 春もしとそ松子の名 白壽
 松戸や焙炉の匂も系は葉 立
 撫松——葉も二三かを葉 一語

猿啼く南ふくは旅の風 松嵐
茶坊ぬまのりあき挿水 立

牙仙

碧牡丹 難水 棘り春の水 一叟
~~~~~に風の吹りあし 壽仙  
雲さく 柳垣乃鞠の夕常々 空来  
雪 結一 心まき 心まき 入 鬼仙  
多海く 小玉の鬼乃面ふし 一路

と海り 空く 臨し 乃 松 秀哉  
後 空ハ 古川の 流 不 神 松 泉山  
竹 市子 簪の 雪ハ 薄 雪 好面  
繁 松ハ 赤 三 合 心 心 海り 因水  
同 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心  
原 也 子 赤 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心  
か 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心  
心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心



の晴ま〜朝の系水絶く示

壽仙

悟子多猶乃〜る出か〜り

秀嶽

善如〜る白雲のく〜る

鶴黄

滝清〜る水〜る夕〜る

泉山

中窓〜み〜る〜る挿の洗しお

好而

〜る〜る〜る〜る〜る

斗来

竹居〜る麻島乃神の油の中

因多

〜る〜る〜る〜る〜る

思的

禪小作料一宵〜る〜る

鬼仙

〜る〜る〜る〜る〜る

系雅

秀智海〜る雪小靈秀雪方に美

善雅

約挿扶小窓〜る〜る

詠江

祭人の起ハ〜る〜る〜る

秀蒙

燈多〜る〜る〜る〜る

一修

〜る〜る〜る〜る〜る

玄文

行〜る〜る〜る〜る〜る

善雅

吾子ある〜る蘭臺壁に記れり

系雅

〜る〜る〜る〜る〜る

壽仙



古柳の風三日の影向、旅衣 斗来

松ノ一りりるに千の観音 文茶

暖く生涯の志結嘆き語り 張江

移ひるやとぬ来の空しき言 権平

○

うかつらぬ一葉とよむ井戸一 玄沙

難の味らなるを成しに忘 翠松

海原らにり難長宗し大海日 三冬

端々かゝるを幸は樂とほのむ 松山 千之

難をゆゑ似茶と社去しとあり 鬼乙

○

多玄妙舞の喜慶も待かきり 俳系 巴夢

青くゆき年の尾えり 唐詩詠 秋丸

年の名古可 飯田 棋翠

○

馬に麻ととも年じとゆきり 既碎

大海りふ雪の塵つらりふ

除夜の雪周のうねるうやしき 泉瑞



雉子に色海をまると桂原あり

新之

膝をくく名のと海にし柝か

兔道

舟の艦ありしし多やらま

蛙胡

昔昔海陸にうあくを多柝

糸田

少の燈をこの一夜乃はるる

百座

那多のくあつ子とねまのま

三粒

多柝へ眼と鳴り海原乃先

莫藻

川流るあありくうま海柝小

琴松

○

妙鏡乃多は川子能御もくね

系丸

在の外結海をまはし場了

脚逸

其顔は月雪草也眼に

楚茗

美ゆり世自然之有りて子玄

象泉

伏遠は心まふの流るる

茂楓

望の管をくくはとく

葉底

子能多又海に奥に照射山

逸定

是くくを年忘られる

逸雅



雪か入物に白り年の遠く 桂列

あゝ糸乃玉の光を隠し 不二殿

と〜枝の遠くを人を見守り 馬水

○

葉の香にほそとほそと〜 藤原の宮 松濤

○

お雪み降は雪りりり〜 解きりり 雪中居

○

花死後みよかきと 梅人

〜年〜形〜の玉月燈〜 香林

岬の戸に園を〜 出〜 藤原の陸 藤谷

○

細代室ありみよと〜 香才

糸乃玉一玉の種を糸の 榊門

か〜の〜の〜の〜 宗宗

梅子同挿る向く〜 石門

梅およみ〜の〜の〜 東園



五十一

○ 芥子の苗 蔭りり、子のまき種 可雲

七由、お糸のユあやま乃雨 糸子

浦くやあまの梅お丁皆美 兎十

若叶とら怪古田乃こはま茶 梅の枕茶 凡葉

胡麻園のうらぬ朝かりり 風来

多とせとせりり梅田言是話 宗富

美面と並しと路のひし月松 房及 踏石



